

## 東アジア連携・産業の厚みに関する視点・論点

## 1. 東アジア連携について（概要）

## （1）北海道貿易の現状

- ・輸出約3,000億円、輸入約1兆3,000億円。
- ・約1兆円の入超（半分は石油の輸入） ※日本全体は貿易出超

## （2）北海道の輸出動向

- ・全国でも、アジア向けの輸出が伸びているが、北海道ではその伸びが顕著。
- ・特に、冷凍水産品を中心に増加傾向。
- ・しかし、「食」関連の輸出規模は300億円オーダー。（対全国比約10.3%）

## （3）北海道を含む国内企業の東アジア進出

- ・東アジアを中心として北海道を含めた国内企業等の海外拠点は急増している。

## （4）外国・外資系企業の道内立地状況

- ・道央圏を中心に、外国・外資系企業が立地しており、特に欧米諸国が多くを占めている。

## （5）千歳・苫小牧周辺の自動車関連産業

- ・大手自動車関連企業が次々に北海道へ進出。
- ・製品は、本州にとどまらず、アジアや欧州の工場にも出荷されている。

## （6）北海道の観光

- ・来道外国人旅行者が飛躍的に増加。特にアジアからの旅行者の伸びが顕著。
- ・全国では、海外旅行者数が訪日外国人旅行者数を大幅に上回っているが、北海道では逆転している。

## （7）留学生受入数

- ・北海道内の留学生受入数の多くはアジアからで、全国の留学生受入数に占める割合は約1.5%。

## 2. 産業の厚みについて（概要）

### （1）産業構造

- ・総生産は約20兆円、95年から03年の総生産の伸びは北海道が3.8%減（全国は0.1%増）。
- ・産業別構成比を見ると、北海道は農林水産業、建設業、運輸・通信業、政府サービスが全国に比べて大きく特化している（農林水産業：北海道3.3%，全国1.2%）が、製造業は全般的に全国に比べると割合が低い（第2次産業：北海道18.3%，全国25.5%）。

### （2）域際収支

- ・北海道全体の域際収支は2兆円を超える赤字。
- ・中間需要も含めた域際収支を産業別に見ると、特に食料品・農業での他地域への貢献が大きい。

### （3）観光・IT・バイオ

- ・観光産業の波及効果は裾野が広く、北海道の観光消費による生産波及効果は約1.5倍（全国は約2.3倍）。
- ・IT産業（H17売上高：3200億円）は同業者からの受注に売上の多くを依存しており、下請け中心の構造となっている。
- ・バイオ産業（H17売上高：256億円）は堅調な伸びを示しているものの総生産に占める割合はまだ小さい。

### （4）圏域間の産業

- ・道外との域際収支が黒字の地域はオホーツクと釧路・根室。
- ・道央は道内域際収支では1兆円を超える黒字だが、道外域際収支では2兆円を超える赤字で移輸入超過である。
- ・道外との産業別域際収支については、道央を除き各地域とも、第1次産業は黒字が多く、第2次産業に赤字が多い。
- ・道内との産業別域際収支では道央から他地域へ各種製品やサービスが移出され、他地域から道央へ第1次産品や食料品が移出されている。

### 3. 論点

- ① 東アジアとの連携については、北海道においても、貿易、観光、人材など多様な分野で交流が急増している。このため、更に検討を深め、新たな計画における施策の取り上げ方について議論を深めることとしたい。
  
- ② 産業全般に関して北海道は製造業が弱い、新たな計画においてどのように取り上げるかが課題。基本政策部会報告では、産業に関して
  - (1) グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現
    - 1) 食料供給力の強化と食に関わる産業の高付加価値化・競争力強化
    - 2) 成長産業としての観光
    - 3) 人と技術による競争力ある成長期待産業の育成として整理している。
  - ①の議論を踏まえつつ、東アジアとの連携に焦点をあてた施策の取り上げ方について検討したい。
  
- ③ 各圏域の地域間産業連関分析については、地域づくりや、道内各地域の多様な姿と合わせて具体的な施策の検討に活かしていきたい。